



東洋大学工学部 機械工学科同窓会会報

第2号
平成18年
10月10日発行

平成18年度

同窓会総会及び工学部連合育成会大会のお知らせ

恒例の機械工学科同窓会総会と今年7月より発足しました工学部連合育成会の平成18年度大会・懇親会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘いの上ご出席くださいますようお願いいたします。

記

日時:平成18年11月5日(日)(工学祭最終日)

内容:①機械工学科同窓会総会 12時30分～13時15分

場所:2号館2階2201教室

②工学部連合育成会大会 13時30分～14時10分

場所:4号館2階421教室

③記念講演会 14時20分～15時40分

場所:4号館2階421教室

演題:「安心・安全な国づくり・地域づくり ～国民の生命と財産を守る～」

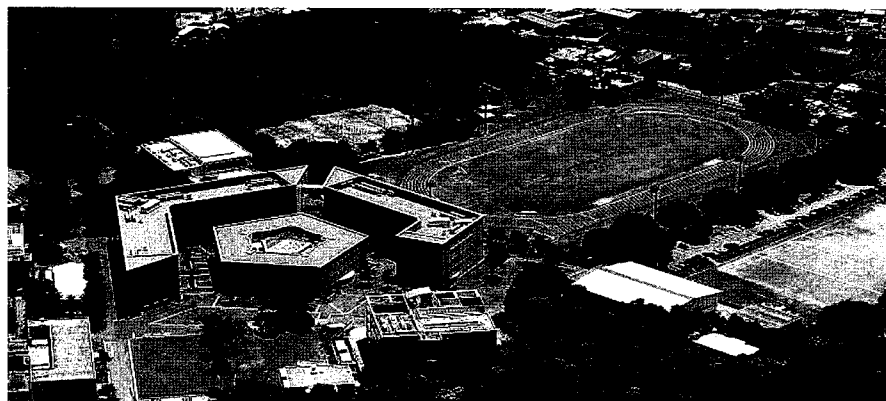
講師:衆議院議員(前防衛庁副長官)

木村太郎氏 (昭和63年3月 東洋大学法学部卒業)

③合同懇親会 16時00分～18時00分

場所:福利厚生棟ホール

会費:3,000円(学生は無料)



～会報第2号発行にあたって～

機械工学科同窓会会長 太田和彦(第1期 昭和40年卒)

昨年、同窓会幹事の皆さんのご尽力で、機械工学科同窓会の会報が発刊されました。B5版4ページ、手作りの小さなかわらばんでしたが、それなりの反響があったようです。

そのひとつが、機械工学科同窓会の「存在感」と活性化に向けての「期待感」が出てきたことです。また、情報に飢えていたOB達に僅かですが大学とOBの近況を発信できたことで、OB間で共通の話題が出始めたことです。

創刊号の反響に気をよくし、今年も幹事の踏ん張りで、第2号同窓会会報が発行できる運びになり、発行者として、この上ない喜びです。今回はサイズもA4版で、ページも4ページ増え8ページになりました。

この第2号の会報が、卒業生や現役の学生間で再び話題になり、同窓会活性化に役立っていたら、幸いです。

皆さんと一緒に、この会報が長続きするようにがんばりましょう!

いつの日にか、カラーで年に数回発行されることを夢見て……

最後に、創刊号は、卒業生6700人中終身会費納入者と卒業後5年以内の人約3000人に発送されましたが、今回は育成会のご協力により、卒業生全員に発送されます。詳細は最後のページに記載されておりますが、この機会に是非とも、機械工学科同窓会の活性化に繋がる終身会費の納入もよろしくをお願いします。

～工学部育成会が正式に設立～

神田 雄一(第5期 昭和44年卒)

前号でご報告しましたように工学部育成会が正式に発足いたしました。7月9日に代議員大会が開催されました。機械工学科OB会より太田会長、清澤先生、新村氏、神田が参加いたしました。会則に則り、最初に10名の理事の選出を行い、新理事として新村氏と神田が選出され、理事の中より、会長に熊井氏(土木1期)、副会長に長谷部氏(建築3期)と神田が選出されました。太田会長からも機械工学科OB会の立場をご説明頂き、ご意見、ご提案などもあり、今後の活動に対する期待を述べられました。

理事会内に五つの委員会を設置し、育成会の当面の活動の主体となる、名簿整理、特別講座の開設、卒業生支援事業、ホームページの開設などの活動が始まりました。OBの方々のご協力、ご支援を是非お願いいたします。

ご承知のように、少子化などにより大学志願者数の減少によりいわゆる「全入」の時代が到来する2007年問題を抱え、工学部も大変な時期を迎えています。東武東上線には入試のための車内広告が出されておりご覧になったOB諸氏もいらっしゃるでしょう。11月の工学祭には育成会大会が開催されますので機械工学科OB会総会へのご出席と合わせてご参加下さい。

狭山精密工業株式会社

取締役GM・工機統括本部長 大浦 昌久(昭和44年卒)

当社は昭和33年シチズン時計の最初の子会社として設立、2年後創立50年を迎えようとしています。昨年シチズン時計が主要関連会社を完全子会社化し当社も100%子会社と成りました。同時に社名もシチズン〇〇と変更致しましたが、当社だけ社名変更しませんでした。今後、シチズングループ経営が強化されより拡大を目指しています。

当社の所在地は埼玉県狭山市で、事業内容は時計・工機・GM・L A・遊機事業に別れ、時計部品加工・金型設計製造・プラ成形・自動盤加工・マイクロ減速機・マイクロモータ・パチンコホルの省力機器の製造販売を手掛け、シチズングループの中でも異色の企業で、『小さくても一流』を企業理念に世界一、世界初にチャレンジして行く企業です。

当社はグループ化されコマテック・シチズンタ張・シルバー電研・シルバー企画・サピオテックの会社から成り、総グループ人員は約800名で、グループ総売上は年間200億円、無借金経営です。

機械工学科の卒業生は初めに昭和42年に2名が入社され、10数名の卒業生が入社し、現在は8名が在籍しており、大卒の中では文系・理系を含め東洋大卒が多くを占めています。

当社の在籍者の殆どが実習を経験し入社する傾向にあり、他の大学入社者と違っています。昔の東洋大学工学部の特徴は産学協同で夏・春の工場実習がありましたが、最近は一回の実習と聞いており、縁あって毎年数名の受入れを行っています。

今回の写真撮影も3名の実習生を受入れて、久しぶりに卒業生が揃っての撮影に望みました。在籍者で一番古いのが昭和44年卒業の大浦昌久で一番若いのが平成13年卒業の横地雅人君です。仕事に積極的に挑戦して行く方を採用しますので、卒業生の子弟を宜しくお願い致します。

URL：<http://www.sayama-pre.co.jp>



タイでの国際貢献

栗本 紘夫(第1期 昭和40年卒)

私は昭和40年卒業(機械工学科第1期)の栗本です。現在、タイ国に滞在しております。じつは昨年(2005年4月)に約7年間のフィリピン駐在を終え、日本は帰国致しました。それと同時に約40年間の日立電線(株)社員としても、ピリオドを打ち、定年退職を致しました。その後昨年秋頃より、タイ国の電線メーカーのBCC社(Bangkok Cable Co. Ltd.)が、日本のJODC(外務省系)を通じ、電線製造の経営及び技術者を求めている紹介がありました。BCC社はタイ国での業界第2位の中堅企業にて従業員数は約600名(系列を入れると約800名)の規模でしょうか。以後2~3度コンタクトを行い、日本でタイ国のビジネスビザを取得し、タイ国に来て労働省の労働許可証を得て、今年6月よりBCC社のFactory manager(工場長)として、大分年を取った工場長ですが、多勢のタイ人の方々と一緒に電線づくりに頑張っている所です。私自身としましても、人生最後の国際貢献と解釈しタイ語の全然喋れない、読めない外国人(日本人)が一人カタコトの英語と手まね、図解などで何とかコミュニケーションをとりながら、経営指導とか技術指導を行っております。



現在タイ国の産業界(特に製造メーカー)では、日本式のマネージメントの導入、実践が盛んに論じられております。発展途上国の一員である彼等は、今日まで日系、米系、欧州系の色々な企業より、技術導入や経営指導を受けてきました。しかし、ここに至り、少なくとも物づくり(メーカー)に関しては、トヨタを代表とする自動車業界に示される様に、電機、精密機械、鉄鋼、非鉄、化学の各業界も日本企業の健闘が目立ち始め、それが技術開発力やマーケット力だけでなく、日本式の独特のマネージメントにあると見ているようです。故に、タイ国のドメスティック企業(タイ資本家)では、日本企業を卒業したまたは実践中で日本式マネージメントの指導のできる経営者や技術者の採用に躍起になっております。東洋大学工学部の創立の精神は”製造現場に密着した、高度な技術者の養成”と私は解釈しており、諸先生より厳しく指導された事を記憶しております。”物づくりをマネージメント出来る人材”は、東洋大学工学部の卒業生には沢山育っていると思います。

今また日本でもこの精神は、バブル不況を乗り越えた企業間に再度叫ばれている様ですし、海外でも上記の様に日本人に指導、援助を強く求めていますので、皆さん積極的な挑戦を期待しています。

追記

タイ国で労働許可証(ワークパーミット)を取得する時に、大学の卒業証明書、履修証明書(成績証明書)を英文で求められました。早速川越の教学課に事情を説明しましたら、約1週間で郵送されて来ました。40数年前森の中の川越キャンパスで勉強した沢山の科目とその成績を見ながら、教えて下さった先生方を想い出し(多分殆どの先生は鬼籍に入られていると思いますが)現在の自分と重ね合わせた時に、先生方に深く感謝し、そしてきちんと私のデータが残っていたことに感激致しました。川越教学課の若い皆様には英文翻訳や書類作成へのすばやい対応にかんして最も古い卒業生の一人として深く感謝しております。ありがとうございました。

集う、我ら第一学生寮O.B

久住 宏(第4期 昭和43年卒)

福利厚生棟のあるところに第一学生寮がありました。

福島寮監ご夫妻と共に過ごした寮生活は厳しい中にも和気あいあいとしたもので、それはそれは実に楽しい日々でした。しかし、学生の本分からはずれない節度ある生活を送るよう福島寮監は求められました。精神面でひ弱な我々にとって、規律ある生活、後輩を指導する生活は人格形成の上で大いに助かりました。

その福島寮監ご夫妻もその役割を辞し、故郷の飯田に戻られてから数年後、寮監が米寿を迎えられたことを機会に皆なでお祝いしようと平成2年8月飯田近郊の昼神温泉に集まりました。家族も含め44名の賑やかな集いでご夫妻の本当にうれしそうなご様子が忘れられません。

そして、人生終焉の時はもちろん異なりましたが、お二人とも長寿をまっとうされ、いずれも享年97歳でした。

2年に一度の再会はところを変え、お二人が眠られている富士山の見える富士霊園ということになりました。

昨年11月13日箱根のホテルに集まり、再会を喜び合いましたが、思い出話は尽きず、部屋に帰ってからもとどまる事を知らず、気がついたら夜中の3時という次第でした。翌日、富士霊園でご夫妻の長女の長倉光子様とお会いし、墓参を無事済ませることができました。

また来年の11月を予定しておりますが、このように長年O.B会が継続できたのも、ひとえに松下吉男君(8期建築卒)、岸本文義君(6期機械卒)らの世話人の方々のおかげと感謝しております。



皆さん！お元気ですか

星野 喜弘(第18期 昭和56年卒)

就職課の扉をたたいてはや四半世紀、自動車のような大量生産と違って工作機械はのんびりしているから、向いているんじゃない？と言われて選んだこの業界、配属されたのが制御課という、のんびりとはちょっとちがう世界でした。制御の世界は日進月歩、入社して始めて担当した8ビットのマイクロコンピュータから、16ビット、32ビットと来て、最近はそのようなことを意識させないWindowsやLinuxの世界になっています。工作機械自体もテーブルが上下左右に動く単純なものから、A軸C軸という回転軸が付いた5軸の機械へ、90年代は失われた10年とかいわれていますが縁の下では確実に進歩しています。

さて、こんな時代を共有している18期卒業生！清水君、安田君、石黒君、関川君、田中君、磯田君、古尾谷君、栗原君、小暮君、伏見君、元気ですか？最近工学部のキャンパスにお邪魔して様変わりにはびっくりしました。工学祭で集まりませんか？

最後に、同窓会幹事として一言。是非OBだより投稿ください。インターネットのアンチョコで調べてみました。

- ①学生時代の思い出や、特に印象に残ったことは
- ②現在の業務の内容は
- ③現在の趣味など、仕事以外で楽しんでいることは
- ④今振り返ってみて、学生時代に学んだことで、仕事に活かされていることは
- ⑤在学生や同窓生に向けてのメッセージありますか

こんなこと、一項目、数行でも事務局にメールください。きっとあなたの名前を聞いただけで懐かしいと思う人がいっぱいいるでしょう。

よろしくをお願いします。

【機械工学科教員消息】

定年退職

- 一瀬 正教授
平成3年3月定年により退職されました。
現在名誉教授でお元気です。
- 大塚 貞吉教授
平成6年3月定年により退職されました。
- 上原 邦雄教授
平成12年3月定年により退職されました。
現在名誉教授でお元気です。
- 花田 桂一助教授
平成15年3月定年により退職されました。

訃報

- 吉田 進教授
昭和61年3月逝去されました。
- 北村 仁一教授
平成3年12月心臓疾患のため逝去されました。
- 渡辺 亮治教授
平成5年3月がんのため逝去されました。
享年70歳
- 笠原 英志名誉教授
平成18年1月17日(火)
心筋梗塞のため逝去されました。享年72歳

退職

- 太田 裕治助教授
平成13年3月退職されました。
現在、お茶ノ水女子大学に勤務されています。
- 月坂 紀一講師
平成12年9月退職されました。
- 増田 武輔助手
平成13年3月退職されました。
- 竹下 英夫講師
平成17年3月退職されました。
- 山口 隆夫講師
平成18年3月退職されました。

新任

- 物部 秀二助教授
平成18年4月より機械工学科に着任されました。
専門は精密ブローブ加工 超高分解能光計測です。

所属変更

- ・コンピューテーショナル工学科創設のため
前川 透教授が機械工学科から転属されました。
- ・機能ロボティクス工学科創設のため
石川 圭介教授 望月 修教授 松元 明弘教授
人見 憲司教授の4名の先生が機械工学科から
転属されました。

付属高校でがんばっています

松岡 里美(第34期 平成10年卒)

東洋大学附属牛久高等学校で数学教師として勤務して9年が過ぎようとしています。教科指導や部活動顧問など、やりがいのあるものばかりですが、やはり一番面白いのはクラス担任です。私は今年度、2学年進学文系を担任しています。男子23名、女子19名の計42名のクラスです。

クラス担任として日頃から心がけているのは、活発な子も大人しい子も過ごしやすいクラスになるような雰囲気作り。生徒にはいつでもクラスメイトのことを考えるように指導しています。

クラスがまとまる学校行事では、クラス目標を決めています。

6月の球技祭では「男女の仲を良く」。試合の勝敗ではなくクラス全員で応援することに意義があることを伝えていきます。

9月の文化祭で行われるクラス対抗合唱コンクールでは、「諦めず努力する」。

少しずつ練習すれば成果が必ず現れることを合唱を通して学んでもらいたいと思っています。

10月の定期考査対策として居残りテスト。

1週間前から毎日、数学の小テストを実施。不合格は放課後に再テストを行います。

教えあうことでクラスメイトとの交流も深まり、解ける喜びを味わってもらいたいと考えています。

10代の犯罪など心が痛むニュースばかりですが、本校ではほのぼのとした学校生活を送っています。

【工学部機械工学科ニュース】

工学部機械工学科でJABEE認定取得

工学部機械工学科では、大学などの高等教育機関で実施されている技術者育成のための教育プログラムが、技術者教育に適しており、社会が求めている水準を満たしているかを審査し、認定する第三者評価機関であるJABEE(Japan Accreditation Board for Engineering Education 日本技術者認定機構の略称)に2005年度認定審査を申請していましたが、5月に認定を取得しました。

工学部としてのJABEE認定の第1号となりました。

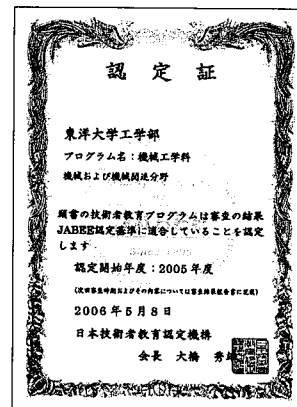
認定プログラムに必要な水準は、国際的あるいは産業界による社会的なニーズを視野に入れて定められたもので、最近問題となっている技術者倫理などを含めた基礎的な技術者教育のほか、専門教育などそれぞれに対して認定基準が設定されています。

認定水準は、時代と共に常に変化しますので、教育プログラムは継続的な改善が求められています。こうした水準の設定と継続的な改善は、あくまでも国際的な技術者教育の同等性の確保と質の向上を目指したもので、画一的なプログラムを押し付けているものではありませんので、機械工学科の教育理念や教育目標は、十分に尊重されています。

JABEE認定を受けた教育プログラムにより教育を受け、卒業した学生には機械工学科より認定証を授与し、これにより技術士の一次試験が免除される特典が与えられます。

機械工学科で学んだ多くの卒業生が世界中で活躍することが大学の評価にも繋がりますので、卒業生の皆様も是非応援してください。

(文責:神田)



機械工学科同窓会の皆さんへ

同窓会活動への賛同とご理解、ご支援のお願い

同窓会会報が創刊されてから早くも1年が経過し、ここに第2号を卒業生の皆さんにお届けすることができることを幹事の一人として大変嬉しく思っております。

機械工学科の同窓会は平成3年(1991年)の11月に第1回が開催され、その後回数を重ね、平成15年の第9回はリニューアルされた工学部キャンパスの紹介を兼ねての開催でした。これを機に幹事会では同窓会の活発化を図り、その活動の一環として本会報の創刊を企画しました。

創刊号のリリースを目前に控えた昨年9月中旬、恩師であり第1期生の大先輩でもある清澤先生から『同窓会の活動に協力して欲しい』とのメールが配信されてきました。

私自身は卒業から四半世紀が過ぎ、同期生とのお付き合いも、数人の方と年賀状を交換する程度でしたので、幹事会出席への呼掛けに対する反応はいまひとつでした。先輩幹事からお叱りを受けるかもしれませんが、初めての幹事会への出席はどんな活動をしているのかなという興味半分の気持ちからでした。

大学に残り教職に付かれた先生方を除き、みなさんとは初めての顔合わせでしたが、第1期生の太田会長をはじめとした各世代のOBの方々が様々な意見を出し、同窓会を活性させるために力を注いでいることに感銘しました。特に太田会長の同窓会への熱い想いは、幹事会の回を重ねる度にひしひしと伝わってきます。今回、会報のページが一気に倍増したのもその想いからですし、私が寄稿することになったのも幹事一同の同窓会への想いを少しでも卒業生の皆さんに伝えることができれば、また一人でも多くの卒業生に賛同頂き、一緒になって同窓会活動を盛り上げていきたいとの気持ちからです。

本来、この会報は同窓会終身会費を納めた卒業生にのみ送付されることになっていますが、更なる活性化を目指す幹事会の計らいで、第2号は現時点で所在が明確になっている全員の卒業生に送付するばかりでなく、在校生にも配布されています。

グローバル化が著しい今日では卒業生の活躍の場が国内に止まらず、所在の確認が非常に困難な状況です。個人情報関係で名簿の発行はできなくなりそうですが、事務局では常に卒業生からの連絡をお待ちしていますので、是非近況をお知らせください。

工学部キャンパスは数年の間に大きく様変わりしましたが、所々に懐かしさも残っています。大学本部から送付されてくる校友会報とは違い、この会報はより機械工学科に身近な内容で構成されています。会報に目を通し何か感じるものがありましたら、皆さんお誘いあわせの上、表紙の案内にある総会・懇親会に足を運んでください。たくさんの卒業生の参加をお待ちしています。

同窓会活動を盛り上げていくためにご理解、ご支援をお願いします。

幹事：小山貴士(第16期 昭和55年卒業)

この会報は、同期会開催のお知らせや、同期会の様子、卒業生や、教職員の消息などを卒業生の皆さんにお伝えするページがあります。卒業生の皆さんにお知らせしたいことがありましたら、原稿を右記の連絡先までお送り下さい。この会報は、原則として終身会費を納めた卒業生にお送りしていますが、今回は工学部連合育成会のご協力により、住所の分かっている卒業生全員にお送りしました。

会費が未納の方で会報を受け取った方は、終身会費5,000円を下記の郵便振替口座にて納入をお願いいたします。

郵便振替口座 00150-2-752854

東洋大学工学部機械工学科同窓会

～同窓会連絡先～

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100

東洋大学工学部機械工学科 気付

機械工学科同窓会事務局

電話：049-239-1324

FAX：049-233-9779

担当 清澤文彌太 小林康男